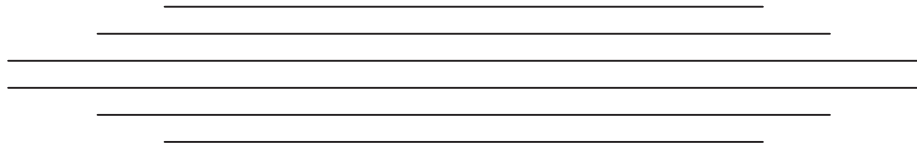


# 世界史

.....



## 第1回

監修・講師 水島 司

# 世界史への招待 ～グローバル・ヒストリーの中の現代～

### 今回学ぶこと

人類は地球の一員として誕生し、これまでさまざまな経験をしてきた。今日世界を脅かしている地球の温暖化でさえも、過去を振り返れば幾度も経験していることが分かる。人類は、自然環境の変化から深刻な打撃を受けながらもそれら乗り越え、現在に至っているのだ。今回は、地球と一体のものとして人類の歴史を考えるグローバル・ヒストリーの視点から、地球環境の変化に人類がどのように対応してきたかを学ぶ。

#### 調べておこう・覚えておこう

- 人類が誕生してから現在までの、人口の増減を地域毎に調べてみよう。
- 人口が大きく増加したり減少したりした地域について、それぞれ何が原因だったのか調べてみよう。
- 人類が狩猟採集生活から定住農業を行うようになって、何がどのように変わったのかについて、人体、寿命、暮らし、食べ物などに分けて具体的に調べてみよう。

### 温暖化の人類への影響

現在、深刻な環境問題として議論されている温暖化に代表される地球環境問題を歴史の観点から見てみると、どのようになるのだろうか。

誕生以来の地球の歴史を振り返ると、地球が今日まで幾度かにわたって寒冷な氷期と温暖な間氷期を繰り返して経験してきたことに気付く。問題は、その変化に、人類がどのように対処して現在の地球社会を作り上げてきたのかという点である。

例えば1万年前の温暖化は、人類を狩猟採集生活から定住農業生活へと転換させ、そこから農耕文化が生まれてきた。定住農業は人々の生活を安定させ、人口を大きく増加させ、メソポタミア文明をはじめとする大文明を各地に誕生させた。しかしその一方で、このような転換は、開発の進展による人口の増大と人口の都市への集中をもたらし、大量の犠牲を生む疫病を抱え込む新たな環境をも生み出してしまった。疫病は、開発により同様な環境が形成されてきた他地域へも人の移動の拡大によって伝播されることとなり、そこでもしばしば大きな犠牲が生じた。このように、人類は開発の進展と人口の大きな増減を経験しながら今日に至っている。

### 小氷期に起きた産業革命

人類は農業不振や飢饉をもたらす寒冷化も経験してきた。たとえば14世紀半ばから19世紀半ばまで続いた小氷期は、農業不振と深刻な飢饉を各地に発生させた。人類は、この危機に対して農法の改善や経営方式の革新で対応してそれを乗り越えただけでなく、従来を上回る食料生産を実現させた。

他方、そうした対処により生まれた新たな生産のあり方は、農村と都市との関係を変化させ、従来の生産関係を揺り動かした。そうした流れの中で生じた産業革命は、エネルギーの生産と消費のあり方を大きく変え、そこで必要とされた化石燃料の大量の消費は、今度は温室効果ガスという新たな環境問題をもたらすようになり、この問題への対処を人類に迫っている。

### 地球環境の変化

地球と人類の歩みは、宇宙の一要素である地球と、その地球で人類が営んできた開発の歩みでもあった。人類は、農業・耕地開発という形で地球の表面を大きく変え、増大する農業生産を基盤に人口を増大させた。そのことはまた、さらに新たな空間での開発を促し、人口の空間分布を変え、地球環境を継続的に変化させてきている。

気候変動に象徴される地球環境の変化は、人類にさまざまな負荷を与え、時には大きな犠牲を払わせながら、人類の取り組みを促してきた。それらを通じて人類に与えられ、あるいは人類が生み出したリソースの変動とその利用のあり方の変化は、出産から死亡に至る人の生命、身体、暮らし、社会の仕組み、国と国の関係などを大きく規定してきた。地域毎の人口の動きは、そうした環境変化と人類の取り組みを映し出す一つの鏡でもある。地球と人類を一体のものとして歴史を捉えようとするグローバル・ヒストリーは、そうした変化を映し出す幾つもの鏡を用意する歴史学でもある。個々の地域や国家の歴史を超えた地球と人類の歴史を扱うグローバル・ヒストリーから学ぶことは多い。